

# カメラを通して 大館の魅力探し

ゼロダテ／大館展 実行委員会 [秋田県大館市]

テーマ

## 秋田県大館市民による 地域資源の映像化と街中映像祭

設立年月 2006年12月1日

メンバー数 19人

代表者名 佐々木 隆幸

連絡先

〒017-0841

秋田県大館市大町9

ゼロダテアートセンター内

ゼロダテ／大館展 実行委員会

tel 050-3332-3819

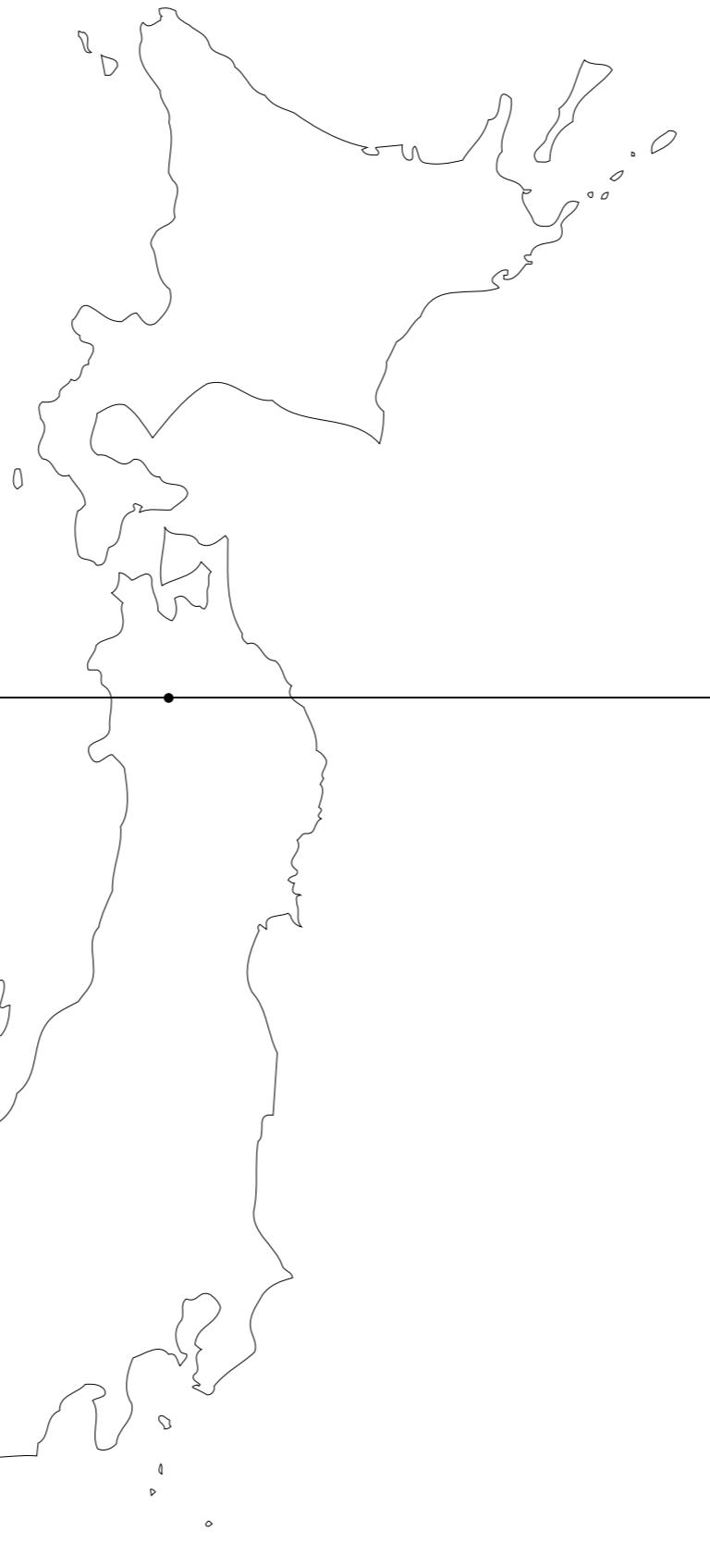
fax 050-3332-3819

e-mail info@zero-date.org

URL <http://www.zero-date.org/>

わたしたちについて

2007年から始動した地域創造を目的としたアートプロジェクトです。世代やジャンル、社会的地位を超えた多様な文化活動を行っています。今後は更に広域を視野に入れ地域資源の発掘また発信をしていきます。



### 活動に至った理由や背景

ゼロダテとは、秋田県大館市「ODATE」を「0-DATE」つまりゼロの日と読みかえ、大館市の街(地域)を創造するという文化芸術活動です。

2007年から始動した本プロジェクトは、世代やジャンルや社会的地位さえもこえた活動を展開してきました。

「創造的な活動に触れたい、表現したい、発表したい」その思いに応えるべく、空き店舗に作品を展示し、作家が滞在し街の地域資源を映像化するなど市民参加型のアートプログラムを積極的に行ってきました。

作品を表現する場や発表の機会、ワークショップなどで作家のエネルギーを市民や地域に落とし、持続可能な市民文化芸術活動の発展につなげることを目的としています。

活動の開始は大館市からでしたが、今後は秋田県全域を視野に入れ、故郷を想う気持ちを各地域の市民と共有し、市民が地元の魅力を再発見し「秋田」と共に歩きはじめること、そして地域文化交流活性化活動が持続していくことを目指しています。

「地域資源の映像化と街中映像祭」は、活動を記録するため開催しました。これまで、大館市に目を向け、意識を共有するきっかけとして、2007年から大館市及び周辺地域のリサーチを行ってきました。街中映像祭を通して、参加した作家や大館市民が感じたことを共有する一つの形として、街へ作品を残すことができました。この記録化は、ゼロダテ／大館展以外でも今後の大館市活性化へ結びつくことだと思います。

特に現代の生活の中で映像は特別なものでなく、デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ、携帯電話やスマートフォンで気軽に撮影できます。この映像メディアを活用し、中高生も含めた、より幅広い市民が参加するプロジェクトにしたいと考えました。また音楽と映像というメディアは、日常の生活に密着していくアートやまちづくりの導入として大きな効果をもたらす可能性があります。



## &lt;ワークショップ&gt;

## ○「おとわことわ」ワークショップ

ゼロダテのテーマソングを毎年手掛ける、大館市出身のシンガーソングライター「サイトウタクヤ」。今年のテーマソングはラテン系です。ワークショップでは、スタッフや大館市民が作成した言葉とそれを動画で撮ったものをもとに、サイトウタクヤがそれらの歌詞をつなげるとともに、動画を歌詞順に編集し、ゼロダテ／大館展2011のテーマソング「メッセージ～もうひとつの大館～」を完成させました。

- ・講師（作詞、作曲）：サイトウタクヤ
- ・講師（譜面制作）：シーナアキコ

6月1日 会場：ゼロダテアートセンター（参加者10名）  
7月18日 会場：ゼロダテアートセンター（参加者33名）  
7月30日 会場：大館市立中央公民館（参加者15名）

## ○ゼロダテビデオ・クリック ワークショップ

毎年、ゼロダテのテーマソング（2007年～2010年）を手がけるサイトウタクヤがこれまで作曲した、過去4曲のゼロダテテーマソングのミュージックビデオを発表しました。このビデオは、招待作家1名、中学生グループ、高校生グループ、公募アーティスト2名によって制作され、各制作者が楽曲を聞いて感じたまま、思うままに大館市の街の風景や人などを撮影し、大館の地域資源を映像化したものとなりました。

中学生グループ「秋田県大館市立東中学校美術部」  
7月21日 会場：秋田県大館市立東中学校（参加者20名）  
高校生グループ「秋田県立大館鳳鳴高校放送部」  
7月15日 会場：秋田県立大館鳳鳴高校（参加者6名）  
8月3日 会場：ゼロダテアートセンター（参加者4名）



「おとわ ことわワークショップ」の様子。ゼロダテ／大館展2011テーマソング「メッセージ～もうひとつの大館～」のコーラスを市民、スタッフ、作家など15名で合唱。地域特有の盆踊りの音頭で、繁栄を祈って叫ぶ「いやさかさっさ」のフレーズを録音しました。





ゼロダテビデオ・クリック上映風景

### ○ゼロダテ／大館展2011

ゼロダテ／大館展2011の会期に合わせ、二つのワークショップを通して制作された映像（ゼロダテビデオ・クリック）の上映を行いました。会場ビル1Fを「おとわことわ」ワークショップでの成果物の展示スペース（手前）とゼロダテビデオ・クリックの映像上映スペース（奥）に分け、入場無料で開催しました。

日時：8月12日（金）10:00～18:00  
会場：大館市御成町二丁目商店街 木村ビル1F（空き店舗）

#### ゼロダテビデオ・クリック映像作品

① サイトウタクヤ・シーナアキコ  
作品名：「2011-メッセージ～もうひとつの大館～」  
説明：「おとわことわ」ワークショップに記載

② 佐々木紘子  
作品名：「2010-街へ、その先へ」  
説明：数万枚の写真をコマ撮りの手法を使い映像化しており、一コマコマが街を印象づけています。

③ 大絵晃世  
作品名：「2010-街へ、その先へ」  
説明：何気ない大館の日常生活の一部分を切り取り特に街の人々に注目した映像作品となっています。



ゼロダテビデオ・クリックのチラシ

### ○ゼロダテ／大館展2011 ゼロダテビデオ・クリック発表上映会

映像を制作した作家や中高生に作品の制作過程、視点、難儀した点など、大館市内のリサーチ状況や作品説明を交えながら上映会を開催しました。バブルックススペースで開催したことにより、スタッフや作家関係者以外にも多くの方（市民、観光客）が集まり、楽しんで頂けました。鑑賞するだけの一方的な上映会ではなく、作家に質問ができるなど、交流会形式の発表上映会となりました。

日時：8月20日（土）18:00～20:00  
会場：大館市 ハチ公小径

参加作家  
・サイトウタクヤ  
作品名：「2011-メッセージ～もうひとつの大館～」  
・秋田県立大館鳳鳴高校放送部員  
作品名：「2008-LINE GLID CITY」  
・大館市立東中学校美術部  
作品名：「2009-BEAUTIFUL CIRCLE」  
・佐々木友輔  
作品名：「2007-リズムは僕たちを踊る」  
・佐々木紘子  
作品名：「2010-街へ、その先へ」  
・大絵晃世  
作品名：「2010-街へ、その先へ」

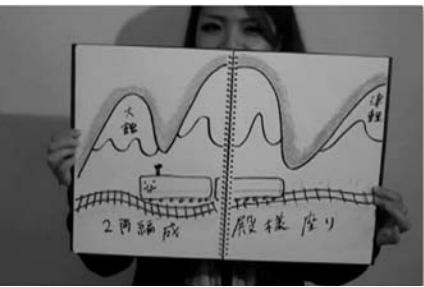
### 東京での報告展



### ○ゼロダテ／大館展2011 報告展 ゼロダテビデオ・クリック上映会

日時：10月1日（土）18:00～20:00  
10月23日（日）14:00～19:00  
会場：ゼロダテアートセンター東京

ゼロダテ／大館展2011 報告展の会期中に、ゼロダテビデオ・クリック上映会を2回行うことで、主に首都圏在住の来場者へも、ゼロダテ／大館展の活動を紹介するとともに、ゼロダテビデオ・クリックを含むゼロダテへのご意見を伺う事ができました。今回の事業で制作された映像作品を今後使用することで、ゼロダテだけでなく大館市の広報効果も期待できると思います。



「2011-メッセージ～もうひとつの大館～」より



ゼロダテビデオ・クリック上映風景

「ゼロダテビデオ・クリックワークショップ」の様子。地元高校生を対象に映像制作についてのレクチャーを行いました。



## 成果

2007年から毎年ゼロダテのテーマソングを手掛けるサイトウタクヤが行ったワークショップ「おとわことわ」。例年、テーマソングの作詞作曲は彼自身が行っていましたが、2011年は住む地域や世代も様々な約70人の方々(レジデンス・アーティスト、市民、スタッフ等)から、自分の好きな言葉や大切な人、故郷への想いなど自由なコメントを集め、それらを全て繋げてテーマソングの歌詞へ昇華させました。街と人とその想いが音楽の力を介しひとつになり、市民をはじめたくさんの人々が協働した作品となりました。

また「ゼロダテビデオ・クリック」ワークショップでは2007年から2011年のテーマソングのミュージッククリップ制作という新たな試みがなされ、大館市の様々な風景が中高生や招聘したアーティストなどにより映像化されました。中高生には映像制作という普段触れる事の少ない分野への導入に加え、何気なく生活している街に目を向けて故郷について考えてもらう機会に、アーティ

ストには外部の目線で新たな街の魅力や視点を市民さんに提示する機会となりました。同じ街に住んでいる子供たちでも、年齢や環境により視点の差異が見られたり、手法やストーリーにもそれぞれの工夫や想いが感じられたりと発見が多くありました。ワークショップで制作された楽曲と映像は、ゼロダテ/大館展2011内でのコンサートや上映展示、オープニング、クロージングパーティで披露され、たくさんの市民や来訪者の目に触れることになりました。

2011年は音楽の間口の広さも功を奏し、結果として若者からお年寄りまで様々な地域住民との協働が行われたように思います。今後更に街の「これから」を担う子供たちの発想力と想像力の助長のためにアーティストとの協働を促し、市民を巻き込む日常的な働きかけが必要だと感じます。

ゼロダテビデオ・クリック参加者の  
感想をベースにして

中学生・高校生にとってはビデオクリップはとても身近で興味を持ちやすいテーマだった。大人が考へているよりも生徒達はビデオカメラなどのツールをちゃんと使いこなしている。色々なミュージシャンやアイドルのミュージックビデオを見ているからかもしれない。

音楽を取り口にすることは一見アートや美術とはかけ離れているように見えるが、実は創造することの入り口としてはとても効果的であった。

プロの映像作家や、アーティストが作る映像と見比べても中高生の作ったビデオクリップはとても興味深いものがある。この映像は、学生の彼らが感じた今の大館の印象であって、いつかこの土地から離れる時や、大人になってから見てもデジタルデータとして貴重なものとなるだろう。

日本語の歌詞を読み取り、それを映像化することがとても楽しかった。何よりも学校の授業とは違つて、自分たちが興味のあることを題材に出来て楽しかった。



「ゼロダテビデオ・クリックワークショップ」の様子。ゼロダテ／大館展2008テーマソング「LINE GLID CITY」を視聴してもらい、生徒ひとりひとりがこの曲から何を感じ、どのような作品を作り出したいか、みんなでイメージの共有を図りました。

## 今後の継続化や新たな取り組み

中学生・高校生にとっては今まで「アート」は取っ付きづらいものと考えられていましたが、身近なミュージックビデオのような映像作品を作ることにより、アートに興味を持つきっかけができ、また地域について眼を向けることになりました。その後も彼らにはゼロダテの活動に興味を持っていたいただき、地域コミュニティの形成にもつながっています。地元高校の放送部がドキュメンタリー映像コンクールのテーマにゼロダテを取り上げ、現在制作中です。

文科省ワークショップリーダー研修において、今回参加していただいた大館東中学校の生徒に対し音楽を導入した美術のワークショップを開催しました。ふるさとキャリア教育の一環としても位置付けられ、今回の事業が効果的に活用されています。